

令和2年（2020年）の磐梯山の火山活動

仙 台 管 区 気 象 台
地 域 火 山 監 視 ・ 警 報 セ ン タ ー

地震活動は概ね低調で、噴気活動及び地殻変動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2020年の発表履歴

2020年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○ 2020年の活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～2、図3-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁からの噴気の高さは70m以下で、噴気活動は低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平で弱い噴気が認められました。沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図3-②～⑦、図4、図5）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図3-⑧、図6、図8）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この資料は、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状態（12月3日）

・剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。

噴気の高さは70m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

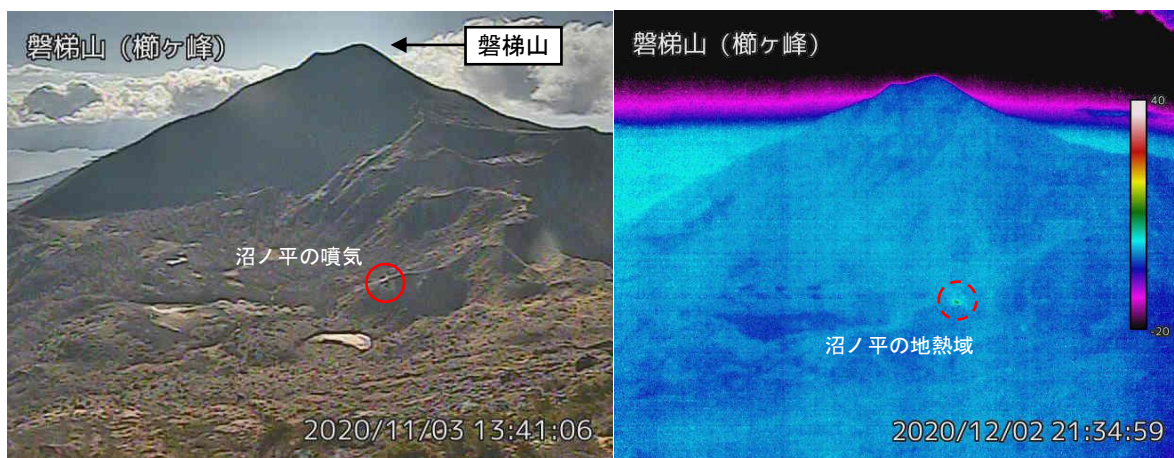


図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況（11月3日）と地表面温度分布（12月2日）

・櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。

沼ノ平（赤丸）で弱い噴気が認められました。

また、沼ノ平の地熱域（赤破線）に特段の変化は認められませんでした。

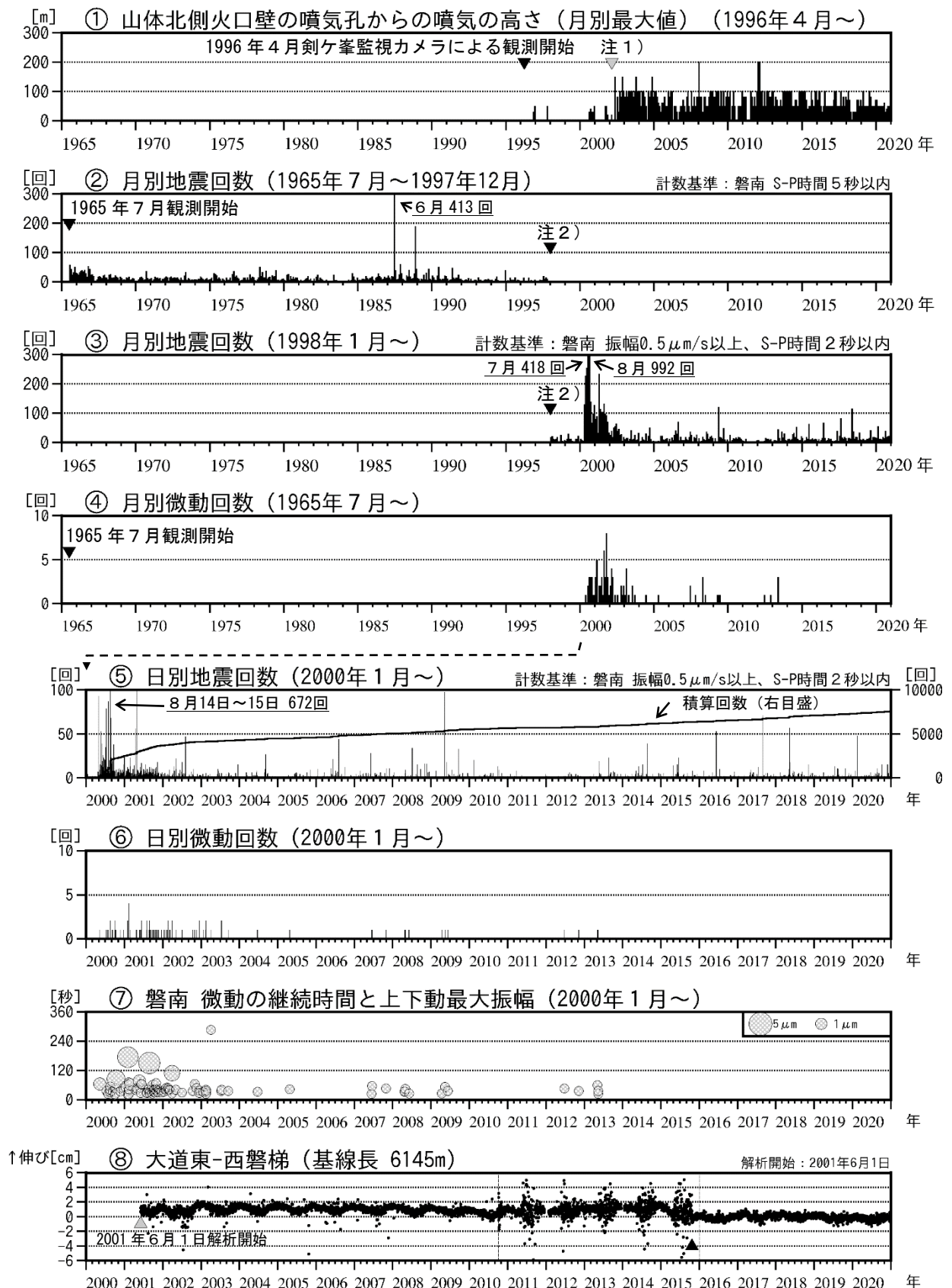


図3 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2020年12月）

- ・⑧は図8のGNSS基線⑥に対応しています。
 - ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑧）。
 - ・注1）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
 - ・注2）1998年より計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更しました。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑧）。

各観測データに特段の変化はみられず、静穏な状態で推移しています。

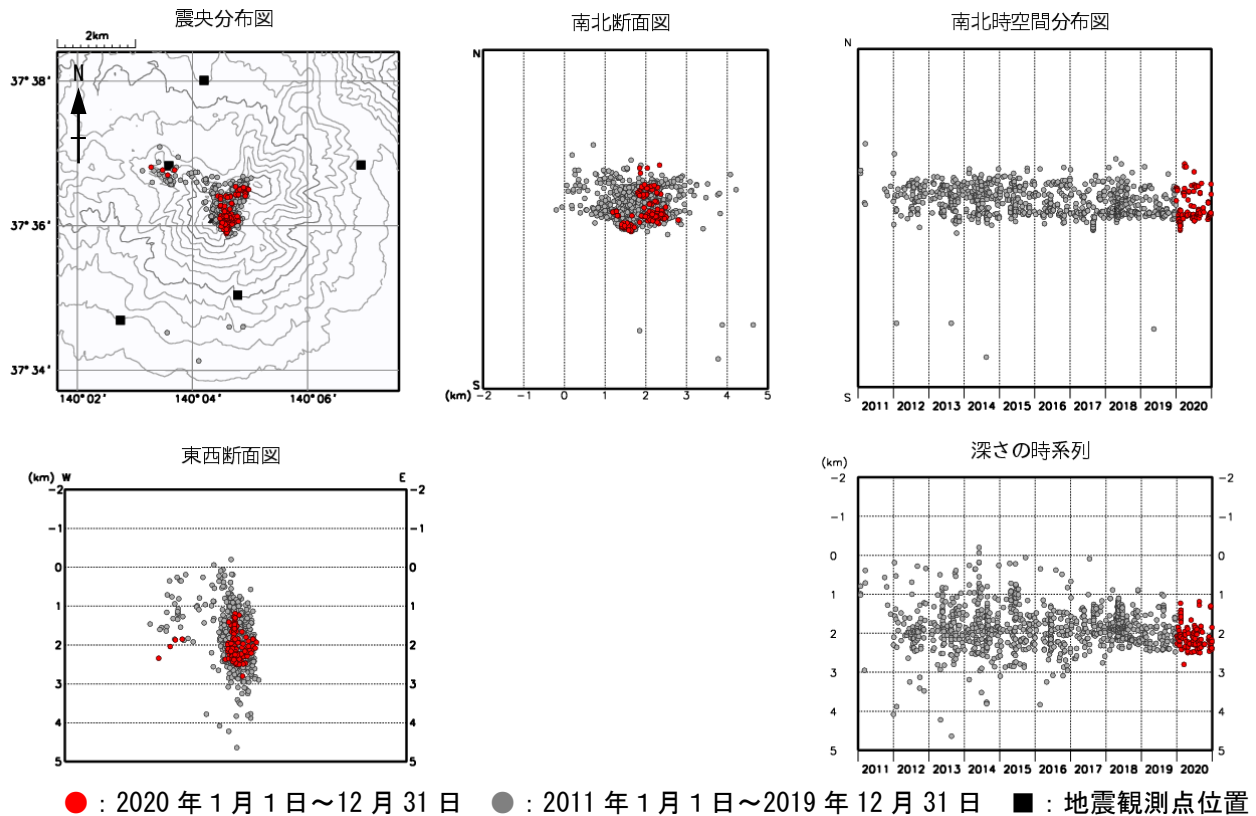


図4 磐梯山 地震活動 (2011 年 1 月～2020 年 12 月)

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

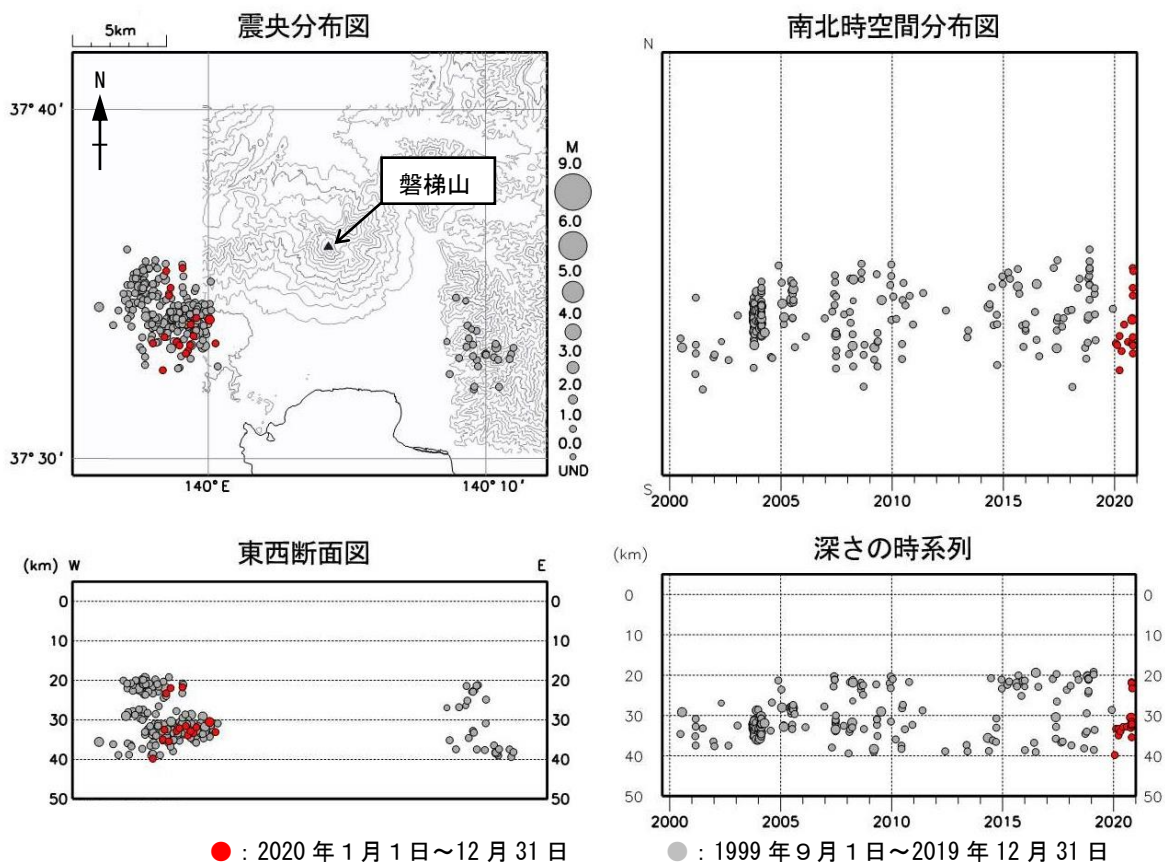


図5 磐梯山 広域地震観測網による深部低周波地震活動 (1999 年 9 月～2020 年 12 月)

- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・ 2020 年 9 月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。
- ・ 2020 年 12 月 31 日現在、2020 年 4 月 18 日から 10 月 23 日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

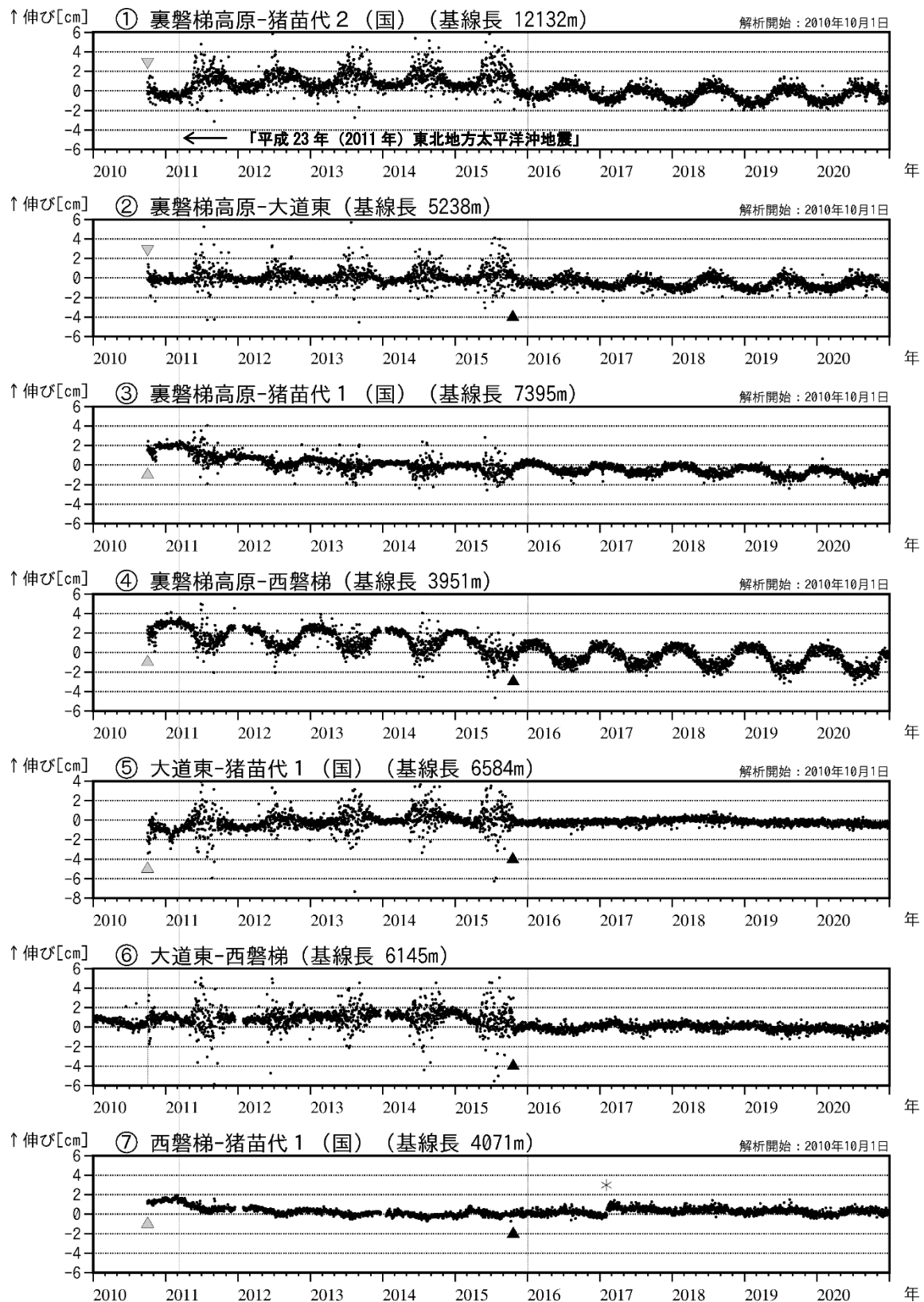


図6 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2010年1月～2020年12月)

- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図8のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲: 大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ▼▲: 解析開始を示します。
- *: 西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

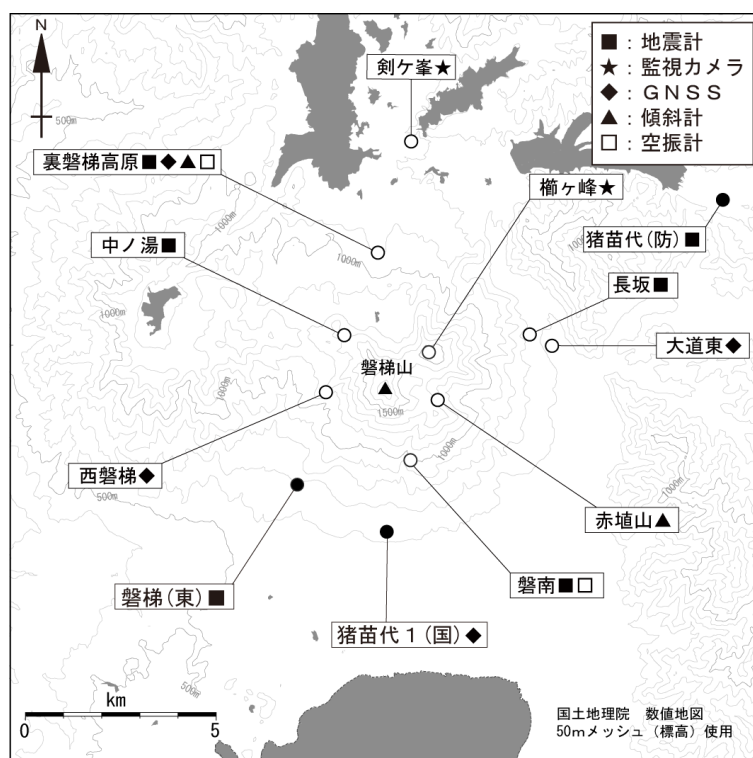


図7 磐梯山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国): 国土地理院 (東): 東北大学

(防): 防災科学技術研究所

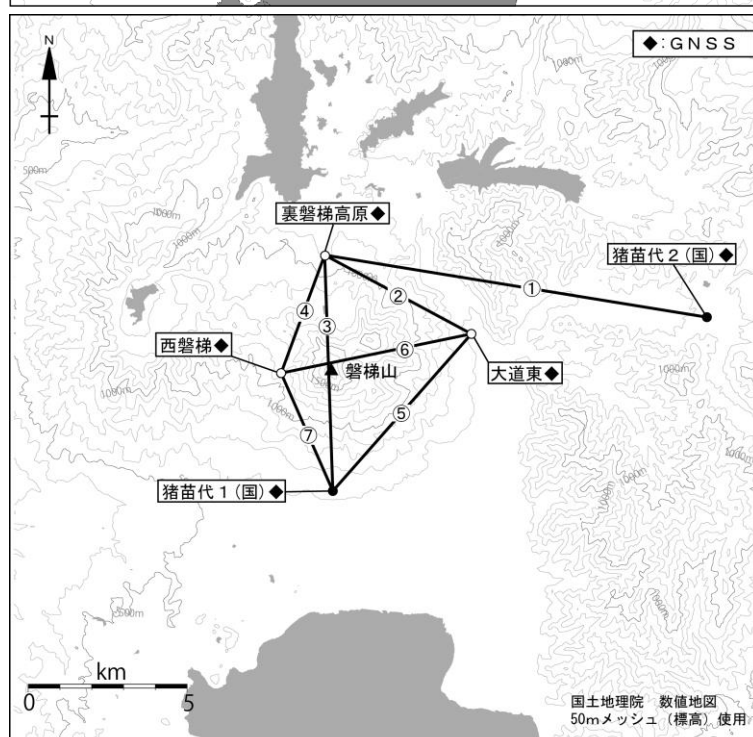


図8 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国): 国土地理院

表1 磐梯山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	磐南	37° 35.04'	140° 04.79'	1000	-1	1965.07.01	
	長坂	37° 36.84'	140° 06.93'	650		2005.12.08	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	-98	2010.09.01	
	中ノ湯	37° 36.83'	140° 03.59'	1320	-2	2016.12.01	広帯域地震計
空振計	磐南	37° 35.04'	140° 04.79'	1000		2000.11.02	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	3	2010.09.01	
傾斜計	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	-98	2011.04.01	
	赤埴山	37° 35.90'	140° 05.27'	1297	-15	2016.12.01	
GNSS	大道東	37° 36.68'	140° 07.34'	582	3	2015.11.13	
	西磐梯	37° 36.01'	140° 03.26'	1185	4	2000.09.07	
	裏磐梯高原	37° 38.01'	140° 04.20'	902	4	2010.10.01	
監視カメラ	剣ヶ峰	37° 39.58'	140° 04.77'	810	5	1996.04.01	
	櫛ヶ峰	37° 36.58'	140° 05.12'	1635	3	2016.12.01	可視及び熱映像